

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 26 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	土屋清人
研究課題	建物の減価償却から考察する中小企業会計の問題点				
研究キーワード	SDGs、中小企業、建物、減価償却、キャッシュフロー、	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任 つかう責任	該当なし	
1. 研究成果の概要					
<p>会社計算規則では、相当の償却が求められている。この相当の償却とは、規則的な償却を意味する。中小企業会計指針でも、每期継続して規則的な償却を行うとしている。国税庁統計年報書（平成 22 年度版）によれば、資本金 1 億円以下の中小企業の 73%が赤字企業であることから、規則的償却は無意味であることが推察される。理由は、欠損期間が限定的であるからだ。この制度リスクがある限り規則的償却は、中小企業の存続に不利益をもたらすものである。</p> <p>SDGs の視点より建物の早期償却を推奨しても、この制度リスクにどのように対峙するかが問題となる。日本の繰越欠損期間は 10 年、米国が 20 年、イギリス等が半永久なので、日本が短すぎることを単に批判しても面白味がない。中小企業を他の視点で捉えなおしてから、制度リスクを批判する手法を検討している。その意味で方向性は誤っていないが、一部遅れが生じている所以である。</p>					
2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）					
【論文（査読あり）】					
【著書・論文（査読なし）】					
【学会発表等】					
「持続可能な社会における「建物」早期償却の方法論」日本税務会計学会、令和 4 年 6 月、東京税理士会館					
3. 主な経費					
4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）					
（本文は 2 ページ以内にまとめること）					